

【分かったこと】

- 1) 熊本大学教授システム学専攻は、eラーニング専門家養成大学院に相応しいeラーニングによる教育を展開するため、IDを応用した入念な設計により、質保証を行っている。
- 2) 専攻設立にあたっては、ニーズ分析、コンセプトの明確化が行われている。
- 3) 質保証のため、カリキュラムの出口、アウトカムを明確化するとともに、修了者に求められる職務遂行能力を一覧として明示、公開がなされている。また、市場に求められる人材に必要な知識やスキルから、各科目の学習内容、相互の関連性が設計されている。
- 4) シラバスの作成にも「シラバスガイドライン」を作成し、学習の効果・効率を高めるための遵守すべき科目横断的事項を定めている。
- 5) 学習や個々の能力に応じた支援策を、オンライン、オフライン双方で準備している。
- 6) 組織・体制面での質保証のため、学部・部局を横断した体制を敷いている。また、教材作成室を設置し、eラーニングコンテンツ制作に関する組織的な質保証が図られている。
- 7) 科目設計が組織的に行われ、評価、改善を行うシステムが構築されている。

【疑問に思ったこと】

IDを組織運営、カリキュラム等に生かしている、あるいは生かすために参考となる事例、論文は指定論文以外でどのようなものがあるか。

【調査結果】

教授システム学専攻の対象、目的とは異なるものの、学部の教育においても、教育システムの見直へのIDの応用は、就学年齢が今後減少する現状にあつて、重要な手法の一つと考えられる。現在、勤務する大学でもカリキュラム改定を控えており、参考となる知見が得られればと思い、IDを組織運営、カリキュラム改定等に生かしている事例の調査を試みた。

1) 鈴木克明. (2009). ファカルティ・ディベロッパーの ID 的基礎とは何か. 日本教育工学会研究会報告集 (FD の組織化・大学の組織改革/一般), pp. 9-5.

大学の教育改善を組織的に進める専門職 (ファカルティ・ディベロッパー) に必要な基礎としてインストラクショナルデザイン (ID) の何が不可欠かを考察した論文である。本稿の中で組織的な ID の活用には、その中核になる FD 担当者の ID スキルが重要であることが述べられている。勤務する大学でも FD と称して様々な取り組みが行われているが、担当する FD 委員は教員間の持ち回りで、改善の必要性を改めて感じた。

2) Carey, J. O.(2005). e ラーニングの質保証へのインストラクショナルデザイン原則の適用: 高等教育における課題とジレンマ. メディア教育開発センター国際シンポジウム 2005、pp.63-73

本稿の中では、「質保証のためにインストラクショナルデザインの方法論が用いられる可能性があるが、そうした方針が定められるか否か、また、教育機関の管理者と教職員がこうした方針を実行することを決意するか否かは、今後の課題」としており、教員自体の意識改革が重要であると感じた。

上記以外にも、国際福祉大の事例、青山学院大学総合研究所 e ラーニング人材育成研究センターなどを見つけることができたが、実践事例はまだまだ少ないようであった。

仲道雅輝, 松葉龍一, 江川良裕, 大森不二雄, & 鈴木克明. (2009). 「科目ガイダンス VOD」 を基軸とした FD: 全学的な e-learning 推進を実現する教員の意識改革.

松田岳士, 合田美子, & 玉木欽也. (2007). e ラーニングにおける多様なデータを活用した質保証と評価のフレームワーク. メディア教育研究, 3(2), pp. 1-11.

幾つかの文献を調査して、組織的な改革への ID の活用は、方針を決める管理者、改革を実施する教員の ID に対する理解の確立が重要であり、それを推進する組織作りおよび人材の確保が重要な要因であると感じた。愛媛大学の教育デザイン室など試みも参考になりそうである。勤務する大学でも、ID の理論を応用し、改革を進めたいものである。もっとも、大学の置かれている現状を考えると遅きに失した感は否めない。

以上。